里地里山の再生のためのマルチハビテーション

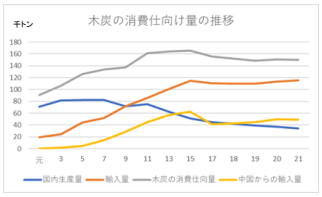
メンバー：中野勝俊（4期）
大川秀樹（2期）

現状

・古来里地里山の雑木林は**薪炭燃料の供給源**として、持続可能な利用がされてきたが、家庭のエネルギー利用が電気・ガスに置き換わり、**放置林化が進んでいる**。また針葉樹人工林も、輸入木材が増え**林業従事者が減少**し、放置林が増加。

・木材に代わる有効な収益源が見出せないまま、**里地里山が過疎化**。

・一方、都会の生活者の休日の過ごし方として、自然に触れ合う「**里地里山暮らしの体験**」は**根強い関心があり**、コロナ終息後には更に注目されることが予想される。



出典：林業統計洋書、林野庁業務資料、貿易統計

我が国の木炭供給量概数　　単位：トン

	黒炭	白炭	粉炭	竹炭	オガ炭
国産	19,000	4,000	27,000	2,000	11,000
中国	11,000	36,000		2,000	9,000
マレーシア	12,000	1,000			6,000
インドネシア	9,000	3,000			12,000
計	51,000	44,000	27,000	4,000	38,000

資料：社）全国燃料協会

目指すべき姿

都会生活者が“**里山での週末移住（マルチハビテーション）**”を実践し、放置林問題を解消する。

里地里山での居住と窯、家付き林の例

＜検討のポイント＞
①“体験”の結果として得られる収益性のある生産物やサービスを検討
⇒間伐材を活用した、付加価値の高い『**備長炭**』生産を核として『**原木シイタケ**』栽培や、週末移動を活用した『**道の駅間の物資輸送代行**』等

②事業主体のあり方検討
⇒放置林の利用交渉のネックとなる**「所有権の複雑・不明性」への対応**が必須

活動の内容（令和３年度）

木炭原木の賦存状況を考慮して、以下の2ヶ所を訪問し、**現地確認**を実施。
併せて、山林経済が抱えている現状の問題等の聞き取り調査を行った。

① 豊田市稲武町　（古橋会）
古橋理事と面談し財団法人化された古橋家の森林の管理、伝承文化について聴取。
残念ながら木炭原木林（カシ、ウバメカシ等）はほとんどないことが判明したが、山林経済の超長期的な維持の為の財団法人化等の工夫が参考となった。

② 美浜町　（加藤窯）
付近にウバメカシの植生が大量にあり、それを原料に数年前から土佐炭の製法で木炭を製造している。『尾張備長炭』としてのブランド化を目指しているとのこと。
ただし、窯が大型で、製造のサイクルが約4日と長く、土佐炭方式ではマルチハビテーション向けの製法ではないと判断。（週末だけの滞在を考えると48時間以内で焼く必要がある）

活動の成果

①愛知県内では**美浜町**が、課題はあるものの、**第１候補**であるとの判断ができた。
また、原木採取地と製炭用地、およびそれに近接する住居の販売物件は少ない状況ではあるが、いくつかの候補を見つけることができた。

②事業実施主体のあり方検討の結果、複数の林地所有権を調査・整理して、一括受託管理する「合同会社」方式の導入が得策との判断に至った。

今後の展開

①美浜町内で、里地里山の原木採取地＋製炭用地＋住居の選定と購入（～10月頃）

②試験的な木炭製造　特に製造ｻｲｸﾙが48時間以内となる工程の確立　（～12月頃）
⇒都市部での試験販売を開始

③実施主体としての合同会社の設立　（～2023/3月末）

④先行事例のヒアリング
首都圏から新潟県（魚沼市）へ移住し、 製炭を行っている方々へのヒアリング